

して大野半内へ上る由。

二九 改作所寄合日之事

一、改作日毎月朔日・十一日・廿一日、此三日に候處、元祿六年十一月より毎月六日充に成候事。

此儀舊記之内に有之、寫置候由。

三〇 諸郡相談所寄合日之事

諸郡相談所定日

前日	前日	前日	前日	前日
二日	四日	六日	八日	十日
十二日	十四日	十六日	十八日	二十日
廿二日	廿四日	廿六日	廿八日	三十日

前日 杉木新町 小杉 日岩 瀬
 前日 宇出津 田鶴濱 十九日 森下
 前日 小松 野々市

三一 能登奥郡中稻作付之事

一、珠洲・鳳至兩御郡共古來より多分中稻作り來申儀、第一順氣遅く、其上御田地山田谷間等多、晚稻植申候而は實入悪敷罷成候故、中稻作り來申与奉存候。尤中稻之儀、悪作等に而御見立奉願儀に御座候得ば、七月中に願上申御格

之旨被仰渡候得共、奥兩御郡之儀漸七月中稻穂に出货付申儀に御座候。依之奥兩御郡共自然悪作に而、秋土用に至御見立奉願候節は、中稻其儘指置御見分を請、御用捨免被成下候儀。古來より右之趣に御座候而、御見立奉願儀に御座候。爲其書付を以申上候。以上。

元文五年九月四日

大澤村	儀左衛門
栗藏村	彦丞
中居村	三右衛門
鹿野村	恒方

御改作御奉行所

右之通承届置候。向後可爲願之通者也。

改作奉行九人連印

右御扶持人 四人宛所

右九月十六日奥書いたし相渡す。

三二 十村誓詞之事

十村共誓詞申付覺

一、御扶持人十村役被仰付候節は、十村共一統之誓詞并見立誓詞、此兩様之誓詞可申付事。

但、名代役茂同事。

一、平十村より御扶持人十村に被仰付候節は、十村共一統之誓詞は最前之誓詞用申段申渡、見立誓詞迄可申付事。

但、御扶持人十村に被付候節、名相改候は、兩様之誓詞可申付事。

一、平十村役被仰付候節は、十村一統之誓詞迄可申付候事。

但、名代役茂同事。

一、御扶持人十村并平十村共せがれ等、名代役之誓詞いたし罷在候者、本役に被仰付候節は、身當り之誓詞相濟不申儀故、御扶持人に被仰付候は、兩様之誓詞、平十村に被仰付候は、一統之誓詞迄可申付事。

右先例等致詮議所如此に候事。

元文三年

右之紙面を以、元文三年八月二日御算用場御横目より改作所へ示談之上、右之通相極申事。

三三 改作御法、植付見分、草修理見分等之節申渡之事

丑正月十七日申渡之覺

一、今日御例之通御算用場御奉行并御横目・拙者共同役列座を以、御改作之御法申渡儀は千秋萬歳之事。

一、昨日御例之通御目錄頂戴被仰付難有存候事。

一、去年全皆濟仕事。

一、年内御貸米・延拂米返上、存程に無之事。

一、年内より當春に到氣色順に有之、近年無之程に寒氣強候間、當年極而豐年に而可有之と恐悅に存儀之事。

一、當年は閏月も有之、節も少おく候得共、此所に目を不付、早速爲致致初可申候。彼岸中日は二月廿四日に候。前々より申渡通、中日限り種池入爲致可申事。

一、用水取入并苗代拵之儀、無油斷様に可申渡事。

一、度々致村廻、養手入等油斷不仕様可申渡候。都而改作